

2026-3-1
No.1122 500円

思想運動

「自民圧勝」の衆議院選挙をうけて 2面
 労働運動部会全国会議の論議から 4~5面
 試練に立ち向かうキューバに連帯 6面
 クロチ「米国を脅かすベネズエラ」 7面
 高市「積極財政」は人民の生活を破壊 8面
 2026非正規春闘がスタート 9面
 連載=パレスチナ解放と文化的抵抗 10~11面

写真は、キューバ共産党のホームページに掲載されたキューバ国内のデモ行進の様相(関連記事6面)



国際婦人デー3・28東京集会へぜひ参加を！

閉塞の時代、出口は声をあげるわたしたち自身

先月の「大義なき解散」に次ぐ衆院選や、大阪府知事・大阪市長選にしても、あんなデタラメなやり方がまかり通るなんて。裏金、統一教会、健保不払い……高市首相をはじめ権力者の罪はお咎めなしで、居直つてやりたい放題。

けれども、そんな偽りの「強さ」や「力」に、多くの人が吸い寄せられてしまう。なぜ？ わたしたちはどうすればいいのだろうか？ 今回の集会をつらぬくテーマです。

政府・資本は一体となって社会を二極化・分断し、円安や株高で恩恵を受けるのはごく一部、物価高に苦しみ生活の底が抜けそうな人が4000万人にも上ります。人びとの「不満」の矛先を「外部」に向けさせつつ、軍事増税、軍需産業優遇、憲法改悪も……と止めどありません。

その「不満」をつくりだしてきた張本人のくせに！ こんなことが許されるなんて絶対おかしい！ 諦めてこの気持ちをなくしたくない。なんでこんな荒んだ社会になってしまったんだらう？ そんな思いがワタシたちのなかに生まれているはず。それを「言葉」にしてみませんか？ いま、ワタシたちが口を開くとき——そんな思いでこの集会を企画しました。

偽りの「力」に抗う女性たち

偽りの「力」に惹かれてしまつのは、その人のつらい現実から目をそむけたいからではないでしょうか。日常の職場、学園、地域で、間違つたことを言う人ほど声がかたくて主張が通る。不条理なことが不条理のまま放置され、おかしいことはおかしいと言つて人がいない。不正や差別が正される体験もない。「正直者がバカを見る」なら「つまくやる」しかない、世の中そんなもんだという諦めや自己欺瞞のなかで、何が事実で真実かなんてどうでもよくなつてしまつ。そうした無責任・無関心は、他者の痛みを「自分事」からますます切り離してしまつて見えます。

小さな日常とこの社会—世界は相似形。世界に目を転ずれば、米トランプ政権とそれに追随する勢力が「力による平和」という虚偽の名のもとに世界中で侵略戦争を企図・強行しています。高市政権の政治路線もそれに全面的に賛同・加担するものです。

そんな日常のなかで、声をあげている女性たちがいます。つらい現実には立ち向かう方法はまだあると。実際、彼女たちの働きかけで周囲の嘘や諦めを溶かすような変化が生まれています。本当はそれを待っていたという反応や対話も。集会はそうした女性たちの体験を持ち寄り、へなせ〜(どうしたら)を語り合うことをメインに構成します。

振り返れば、こうした声や実践を職場・生産点で育てあげて

語り合いをエネルギーに——クロストークの試み

これなかったことに、労働組合運動の衰退の要因があるのではないのでしょうか。もちろん、それらは組織化されなければ変革の力にはなりません。しかし最初の一步は、一人ひとりの発意、不条理への怒りや真実を求める意思であり、それがないところにいくら網をかけたとしても組織にはなりません。同時に、資本の矛盾を排他的におしつけられる女性や若年者などの「非正規」や外注・下請け労働者、移住労働者などを労働組合組織外に置きつつ、労使協調路線をひた走ってきた、その必然的な結果として現状の低組織率があるのではないのでしょうか。

そして、日本人の多くの「自分さえよけりゃいい」というあり方の根源を、わたしたちは戦前から連綿とつづく植民地主義に見ています。民衆の無関心と排外主義が侵略戦争を根底で支えていたという歴史認識が、日本人全体として獲得してこられなかったつけがいま至る所で噴出しているのではないのでしょうか。そうした視点からの問題提起を受けていくことが、集会全体の鍵になると考えます。彼女たちの発言は聴く人の胸を打ち、インスピレーションを刺激するでしょう。そんな会場からの声をも受けながら、集会参加者皆で考議論するのがクロストークです。限られた時間なので発言の数には限りがありますが、発言する人も見守る人もこの集会の主人公、そんな集会にしたいと考えています。

こうしたとりくみは、高市・自民党のSNSをも多用した物量宣伝の大波の前には、ほんの小さな小舟に見えるかもしれませんが、女性たち一人ひとりが政治・社会参加の主体となること、そしてつながることです。女性たちの真摯な怒みや怒りが掛け合わされるとき、わたしたちが進む道を指し示す羅針盤が生まれるはず。わたしたちはどんな社会を望むのか、そのために何ができるのか。その道に近道はないけれど、バラバラだった火種がつながり炎になるエネルギーは確かなものに違いありません。

そうした主体的な目を、ひとたび世界に向けるとき、自分たちと同じように悩み声をあげる女性たちがいつそう身近に感じられるはず。集会では、米政権の不当な侵略・攻撃に抵抗しつづけるベネズエラやキューバなどのドキュメント映像を鑑賞します。それらの国々からの連帯メッセージを受け、また、アジア・中南米の抵抗の民衆歌を聴きながら、インターナショナルな連帯をより強固なものにしていきます。

国際婦人デー3・28東京集会への参加を心から呼びかけます。

【国際婦人デー3・28東京集会実行委員会】